

目に見えない恐怖への祈りⅡ

祇園会と足洗いの行事

今回も無病息災を祈る行事について、『近江八幡の歴史』第3巻「祈りと祭り」から紹介します。

インフルエンザなど現在の感染対策は冬場のイメージがありますが、かつては、高温多湿な夏場は疫病の流行に悩まされる時期でした。そのため、7月から8月にかけてさまざまな祈りの行事が行われます。

祇園信仰、無病息災を祈る行



浅小井町祇園祭 曳山巡行

事は市内に数多く残りますが、最も有名なのは浅小井町の祇園祭です。同町の氏神である今宮天満宮内にある津島神社の祭礼で、毎年7月の第2土・日曜日の2日間行われます。宵宮に松明行事、本日に曳山巡行が行われ、現存する6基の曳山が、境内に集まります。祭り自体は、江戸時代に成立したとされますが、滋賀県では、大津、長浜、日野、水口、米原、大溝といった町場として繁栄したところが曳山祭礼を行っています。彫刻や飾り金具、高価な懸装品で装われた曳山を持つことは、町場であることの証明であり、豪華な曳山は経済力を誇示するステイタスシンボルでした。

その一方で、浅小井の祇園祭の特徴は農村部でありながら曳山の祭礼を行っています。大きな集落というものの、村内で複数の曳山を伝えていることは大変珍しく、藪草生産を中心にした経済力によって支えられてきた祭礼と考えられます。

また宇津呂町では、6月下旬から7月下旬、旧暦の6月1日近くの日曜日に、氏神である公礼八幡神社で「足洗い」の行事が行われます。この時期、神社の傍らに湧き出る湧水池の水に手足を浸すと一年中しもやけにならないといわれており、当日は早朝から人々が集まり、池で手足を洗います。もともとは、しもやけのできやすい旧暦の2月ごろに行われていたようですが、いつの頃からか初夏の行事に変わりました。全国的に、旧



公礼八幡神社（宇津呂町）の足洗い行事

暦の6月1日が過ぎると身の不浄を祓う意味を持った「祓え」や「禊」の行事が始まります。梅雨の時期に入り、長雨や高温多湿による衛生環境の悪化で流行り病などが起こりやすくなるため、人々はさまざまな儀式で身を清め心身共に健康で夏を迎えようとするのです。というわけで、足洗いの行事も、清らかな水で病を祓おうとする行事であることから、夏越の時期に行われるように変化したのではないのでしょうか。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年の浅小井町祇園祭の松明行事・曳山巡行および足洗い行事は、いずれも、中止となりました。

！ 新型コロナウイルス関連の情報は、市ホームページをご覧ください

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、催しが急に中止になることがあります。開催されるかどうかは事前に担当課または主催者へご確認ください。

最新情報は、市ホームページ <https://www.city.omihachiman.lg.jp/> で随時発信しておりますので、ご確認をお願いします。

人口と世帯 令和2年6月1日現在 ()は前月比

総数 82,216人 (+ 4)
男 40,431人 (+ 1)
女 41,785人 (+ 3)
世帯 34,269世帯 (+ 36)

※外国人住民(43カ国・地域/1,518人)を含みます。